

浜の活力再生プラン
(第 2 期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	宇部地区地域水産業再生委員会	(浜プラン ID 1128003)
代表者名	会長 河野 直行	

再生委員会の構成員	山口県漁業協同組合宇部統括支店（宇部岬支店、東岐波支店、床波支店、藤曲浦支店） 宇部市水産振興課 山口県美祢農林水産事務所水産部
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	宇部市 小型機船底びき網漁業（119 名）、機船船びき網漁業（14 名）、ごち網漁業（29 名）、さし網漁業（200 名）、げんしき網漁業（18 名）、潜水器漁業（30 名）、はえなわ漁業（18 名）、かご漁業（170 名）、建網漁業（77 名）、小型定置網漁業（6 名）、いか巢網漁業（15 名）、採介藻漁業（19 名）、海苔養殖漁業（26 名） (延べ 741 名、対象漁業者（正組合員）数計 202 名)
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地域は、山口県の南西部に位置し、周防灘に面しており、小型機船底びき網漁業をはじめ潜水器漁業、さし網漁業、建網漁業、採介藻漁業や海苔養殖業などの多様な漁業が営まれている。</p> <p>主要な漁獲物は、底びき網漁業によるエビ・カニ等や流しさし網漁業によるマナガツオ・サワラ・マダイ等である。以前は、潜水器漁業による貝類の漁獲が多かったが、近年ナルトビエイ等の食害生物の増加等により激減している（特にアサリ）。また、冬場の主要な漁業である海苔養殖業は、栄養塩の不足等の要因により生産額が大幅に減少している。また、漁業者の減少と高齢化も進んでいるため、組合員数及び水揚高は下記のとおり厳しい状況にある。</p> <p>組合員数：平成 26 年度末 237 名 ⇒平成 29 年度末 202 名 約 15%減少</p>

地区内水揚高：平成 26 年度末 663 百万円⇒平成 29 年度末 604 百万円約 9%減少
このような状況の中、平成 26 年に浜の活力再生プランを策定し、新規就業者の確保・育成による担い手対策、種苗放流及び増殖場整備による資源維持・増養殖への取組み、直売所及び食堂（うべ新鮮市場 元気一番）の開設や各種イベントにおける魚の販売、魚食普及、及び未利用・低利用魚等の加工による付加価値向上等、漁業収入の向上のための取組を行っているものの、以前として厳しい状況が続いており、更なる取組みが必要な状況にある。

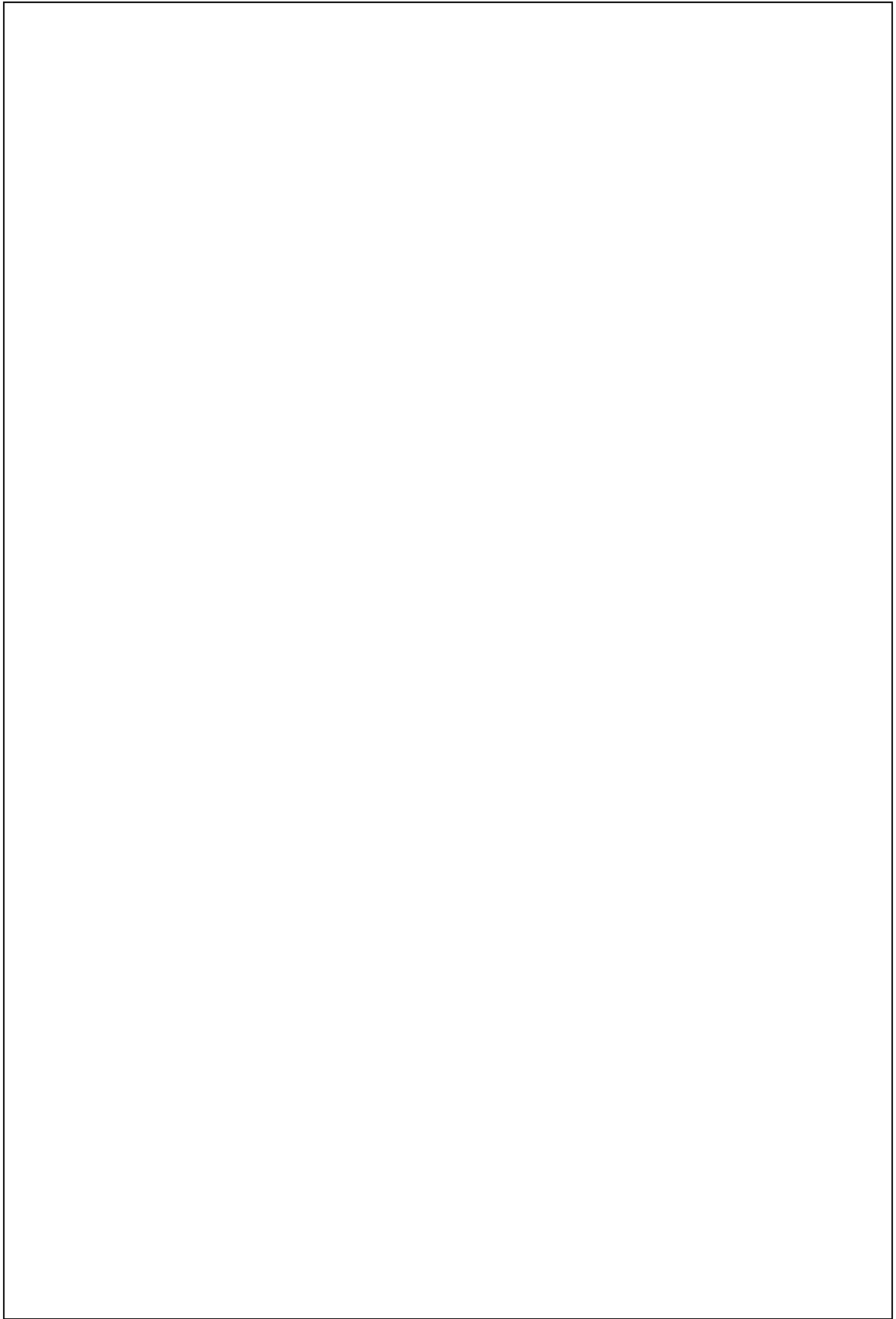
(2) その他の関連する現状等

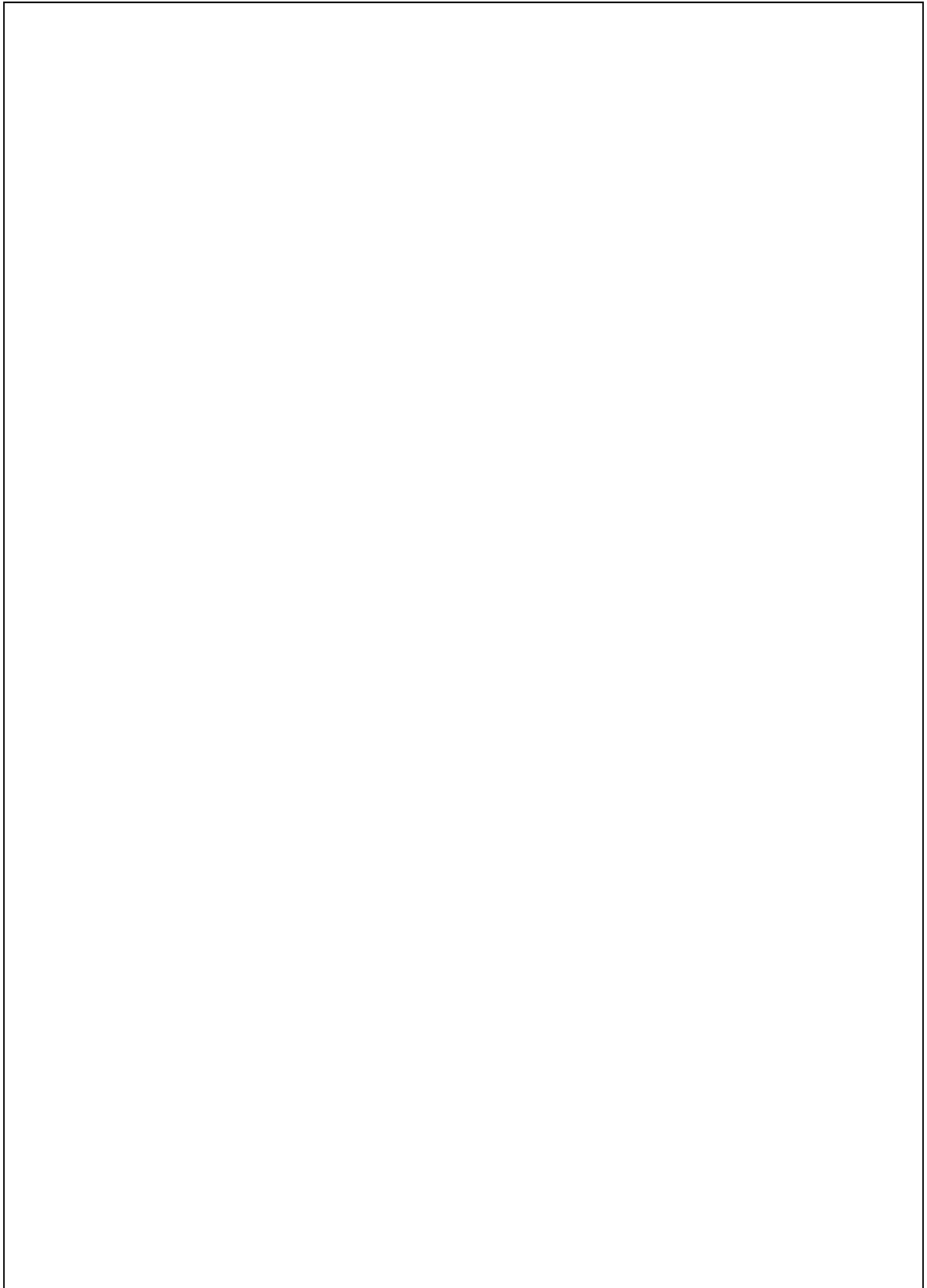
近年の漁業経営悪化及び高齢化等に起因する漁業者減少も進んでいることから、こうした問題への対応が喫緊の課題となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--





(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

(漁業収入向上のための取組)

① 資源管理と漁場環境保全

- ・海苔養殖場への栄養塩の補完対策及び漁場の有効利用への取組
- ・効果的な種苗放流、抱卵ガザミ及び小型魚の再放流等による資源管理強化への取組
- ・被覆網を利用した貝類増殖及び垂下カゴを利用した貝類蓄養等による海域有効活用への取組
- ・藻場・干潟・浅海における藻場造成、食害生物駆除等による環境保全への取組

② 漁獲物の品質・付加価値向上及び加工業の振興対策

- ・直売所及び水産物加工施設である「うべ新鮮市場 元気一番」の充実による水産物販売拠点の活性化、未利用・低利用魚の加工品開発等、6次産業化の取組の更なる推進。
- ・移動販売車を整備することで、「うべ新鮮市場 元気一番」から徒歩圏外で移動手段を持たない買い物弱者への販売、中山間地域および市外での販売を可能とし、きめ細かな販売ルートと販売地域拡大で魚食普及を目指す取組。
- ・鮮度保持技術の研修等を受講することで鮮度保持対策の徹底や、出荷規格の統一により、漁獲物の市場価格向上への取組

③ 宇部地区水産物の積極的な情報発信による PR 対策

- ・宇部市コンベンション協会と協力し、宇部市外の消費者向け PR への取組
- ・宇部市コンベンション協会と協力し、観光漁業の取組
- ・地産地消推進協議会と協力し、地産地消を積極的に進めていることを消費者に PR する取組
- ・市、県と協力し、報道機関を通じて消費者へのイベント周知に関する取組

④ 漁業経営体等の育成対策

- ・新規漁業就業者確保、育成への取組
- ・漁村地域のリーダーとなる漁業士（青年漁業士、指導漁業士）の育成促進への取組

⑤ 漁業経営の基盤強化対策（漁業コスト削減のための取組）

- ・省エネ機器等の導入、低コスト操業の推進への取組

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁獲努力量の削減等については、山口県資源管理指針及び漁業種類ごとに策定されている資源管理計画の確実な遵守により履行する。

(主な取り組み)

- ・漁獲物の体長制限

- ・ 操業制限（区域、期間、時間）
- ・ 休漁期間の設定

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）【所得向上2%】

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業収入を基準年から0.8%増加させる。</p> <p>① 資源管理と漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇部岬支店の海苔養殖漁業者は、海苔養殖場への施肥（塩化アンモニウム等）の実施及び潮どおし等を考慮した効率的な海苔枠の設置（宇部岬漁場は栄養塩が少なく、藤曲浦漁場は栄養塩が多い。宇部岬支店と藤曲浦支店において、藤曲浦漁場への入漁協議を行い、海苔枠の間隔を広げる）により漁場を有効利用し、海域の低栄養塩環境下での生産性向上を図る取組みを続ける。 ・ 宇部統括支店は、市下水道局に協力を呼びかけ、現在の制度で実施可能な範囲で下水道の季節別緩和排水運転を実施し、海域への栄養塩供給を実現させる。また県漁協本店とも協力し、市、県と協議の場を設け海域の栄養塩を増大させるための排水規制緩和等を実現させる方策について検討を行う。 ・ 建網、小型底びき網等漁業者は、市や県等と連携し、クルマエビ、ガザミ、キジハタ、マコガレイ等の種苗放流を実施するとともに、小型底びき網やかにかご等で漁獲される抱卵ガザミを再放流する。また、山口県資源管理指針に基づき作成した資源管理計画の内容を遵守するとともに、値の付かない小型魚についても再放流を行う。 ・ 東岐波支店、床波支店、藤曲浦支店の漁業者等は、干潟において被覆網設置によるアサリ保護を図り、資源管理を行って間引きによるアサリ漁獲を行う。東岐波支店の漁業者は漁港内での垂下カゴでカキの蓄養試験を行い身入り状況を確認する。 ・ 宇部岬支店の潜水器及びさし網漁業者等は、二枚貝の食害生物であるナルトビエイの駆除による二枚貝資源の保護、床波支店漁業者等は、アマモ場の造成による稚魚育成場の確保、藤曲浦支店漁業者等は、干潟の耕耘及び被覆網設置、宇部岬支店・床波支店・東岐波支店漁業者等は、海岸・海浜への漂流・漂着物の回収・処分等を行い、資源の増大を図る。 <p>② 漁獲物の品質・付加価値向上及び加工業の振興対策</p>
---------------------	--

- ・宇部統括支店は、市、県及び関係機関と連携し、直売所及び水産物加工施設である「うべ新鮮市場 元気一番」の充実を図ることで、地元水産物の販売促進を強化する。宇部統括支店女性部などは各漁業者の協力を得て、地元水産物を利用した加工品の開発（小型魚を活用した干物等）や、レストラン新メニューの検討、先進地視察を実施し、水産物の付加価値向上、販路拡大、流通コスト削減等による収益改善を図る。
- ・宇部統括支店は、「うべ新鮮市場 元気一番」から徒歩圏外で移動手段を持たない買い物弱者への販売、中山間地域及び市外での販売を可能とするために、移動販売車を整備し、下関市を除く山口県内に対応した鮮魚販売許可（自動車）の取得を目指す。鮮魚販売許可を取得した後、移動販売を開始し、地域のニーズ等を把握しながらきめ細かな販売ルートと販売地域拡大で魚食普及を目指す。
- ・全漁業者は、神経締め・活締め出荷等鮮度保持技術の統一的導入に努めるとともに、魚を傷つけない新たなエア抜き技術を習得することで、鮮度保持対策を徹底、出荷サイズの規格統一により、漁獲物の市場価格向上を図る。

③ 宇部地区水産物の積極的な情報発信による PR 対策

- ・宇部市コンベンション協会と協力して、宇部市外の消費者向けに PR するための水産物を選定し、観光協会ホームページやポスター等に掲載する。
- ・宇部市コンベンション協会と協力して、観光漁業の活動を協議していく。
- ・宇部・美祢地域地産地消推進協議会と協力して、「うべ新鮮市場 元気一番」のレストランメニューが地産地消として優れたものであることを消費者に周知するため、やまぐち食彩店として登録しガイドブックに掲載する。
- ・「うべ新鮮市場 元気一番」における祭りやイベント、東岐波支店及び床波支店における朝市等について報道機関を通じて消費者へ積極的に周知し、水産物の消費拡大を図る。

④ 漁業経営体等の育成対策

- ・経験豊富な漁業者による就業希望者への長期研修、着業後の経営自立化及び生産基盤の整備を行い、昨今の担い手不足に対応し、浜の活性化を図る。
- ・地域漁業振興への寄与の実績を有する者、漁業者の中核として活

	躍が期待される者として、山口県より認定を受けた青年漁業士、指導漁業士を中心に、担い手の育成、共同出荷等新たな取組みによる経営改善を推進する。
漁業コスト削減のための取組	以下の取組により漁業コストを基準年から 0.4%削減する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃油高騰対策 漁協は、漁業セーフティネット構築事業の加入を促進し、燃油高騰時に備える。 ・ 省燃油活動の推進 全漁船の船底掃除等を定期的実施し、燃費向上に努める。 ・ 省エネ機器導入 3隻の小型底びき網漁船の機関換装を実施し、10%以上の燃油消費量の削減を図る。 ・ 減速航行の実施 全漁船の減速航行を実施し燃油消費量5%の削減を図る
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、漁村女性地域実践活動促進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業

2年目（平成32年度）【所得向上4%】

漁業収入向上のための取組	以下の取組により漁業収入を基準年から1.6%増加させる。 ① 資源管理と漁場環境保全 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇部岬支店の海苔養殖漁業者は、海苔養殖場への施肥（塩化アンモニウム等）の実施及び潮どおし等を考慮した効率的な海苔枠の設置（宇部岬漁場は栄養塩が少なく、藤曲浦漁場は栄養塩が多い。宇部岬支店と藤曲浦支店において、藤曲浦漁場への入漁協議を行い、海苔枠の間隔を広げる）により漁場を有効利用し、海域の低栄養塩環境下での生産性向上を図る取組みを続ける。 ・ 宇部統括支店は、引き続き市下水道局の協力により、現在の制度で実施可能な範囲で下水道の季節別緩和排水運転を継続させ、海域への栄養塩供給の増大を続ける。また県漁協本店、市、県と協力しながら第9次総量削減計画における瀬戸内海の総量削減目標の緩和実現に向けた働きかけを行う。 ・ 建網、小型底びき網等漁業者は、市や県等と連携し、クルマエビ、ガザミ、キジハタ、マコガレイ等の種苗放流を実施するとともに、小型底びき網やかにかご等で漁獲される抱卵ガザミを再放流する。また、山口県資源管理指針に基づき作成した資源管理計画の
--------------	---

内容を遵守するとともに、値の付かない小型魚についても再放流を行う。

- ・東岐波支店、床波支店、藤曲浦支店の漁業者等は、干潟において被覆網設置によるアサリ保護を図り、資源管理を行って間引きによるアサリ漁獲を行う。またアサリ稚貝の天然採苗試験を実施し、浜のアサリ復活を目指す。東岐波支店の漁業者は漁港内での垂下カゴでカキの蓄養試験を行い最適な蓄養数量について把握する。
- ・宇部岬支店の潜水器及びさし網漁業者等は、二枚貝の食害生物であるナルトビエイの駆除による二枚貝資源の保護、床波支店漁業者等は、アマモ場の造成による稚魚育成場の確保、藤曲浦支店漁業者等は、干潟の耕耘及び被覆網設置、宇部岬支店・床波支店・東岐波支店漁業者等は、海岸・海浜への漂流・漂着物の回収・処分等を行い、資源の増大を図る。

② 漁獲物の品質・付加価値向上及び加工業の振興対策

- ・宇部統括支店は、市、県及び関係機関と連携し、直売所及び水産物加工施設である「うべ新鮮市場 元気一番」の充実を図ることで、地元水産物の販売促進を強化する。宇部統括支店女性部などは各漁業者の協力を得て、地元水産物を利用した加工品の開発（小型魚を活用した干物等）や、レストラン新メニューの検討、先進地視察を実施し、水産物の付加価値向上、販路拡大、流通コスト削減等による収益改善を図る。
- ・宇部統括支店は、移動販売車による「うべ新鮮市場 元気一番」から徒歩圏外で移動手段を持たない買い物弱者への鮮魚および惣菜の販売を行い、地域のニーズ等を把握しながら顧客獲得を目指す。
- ・全漁業者は、神経締め・活締め出荷等鮮度保持技術の統一的導入に努めるとともに、魚を傷つけない新たなエア抜き技術を習得することで、鮮度保持対策を徹底、出荷サイズの規格統一により、漁獲物の市場価格向上を引き続き図る。

③ 宇部地区水産物の積極的な情報発信による PR 対策

- ・宇部市コンベンション協会と協力して、宇部市外の消費者向けに PR するための水産物を選定し、観光協会ホームページやポスター等に掲載する。
- ・宇部市コンベンション協会と協力して、観光漁業としての活動を協議していく。
- ・宇部・美祢地域地産地消推進協議会と協力して、「うべ新鮮市場

	<p>元気一番」のレストランメニューが地産地消として優れたものであることを消費者に周知するため、やまぐち食彩店として登録しガイドブックに掲載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うべ新鮮市場 元気一番」における祭りやイベント、東岐波支店及び床波支店における朝市等について報道機関を通じて消費者へ積極的に周知し、水産物の消費拡大を図る。 <p>④ 漁業経営体等の育成対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な漁業者による就業希望者への長期研修、着業後の経営自立化及び生産基盤の整備を行い、昨今の担い手不足に対応し、浜の活性化を図る。 ・地域漁業振興への寄与の実績を有する者、漁業者の中核として活躍が期待される者として、山口県より認定を受けた青年漁業士、指導漁業士を中心に、担い手の育成、共同出荷等新たな取組みによる経営改善を推進する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年から 0.8%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油高騰対策 漁協は、漁業セーフティネット構築事業の加入を促進し、燃油高騰時に備える。 ・省燃油活動の推進 全漁船の船底掃除等を定期的に行い、燃費向上に努める。 ・省エネ機器導入 3隻の小型底びき網漁船の機関換装を実施し、10%以上の燃油消費量の削減を図る。 ・減速航行の実施 全漁船の減速航行を実施し燃油消費量5%の削減を図る
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、漁村女性地域実践活動促進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p>

3年目（平成33年度）【所得向上6%】

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業収入を基準年から2.4%増加させる。</p> <p>① 資源管理と漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部岬支店の海苔養殖漁業者は、海苔養殖場への施肥（塩化アンモニウム等）の実施及び潮どおし等を考慮した効率的な海苔枠の設置（宇部岬漁場は栄養塩が少なく、藤曲浦漁場は栄養塩が多い。
---------------------	--

宇部岬支店と藤曲浦支店において、藤曲浦漁場への入漁協議を行い、海苔枠の間隔を広げる)により漁場を有効利用し、海域の低栄養塩環境下での生産性向上を図る取組みを続ける。

- ・宇部統括支店は、引き続き市下水道局の協力により、現在の制度で実施可能な範囲で下水道の季節別緩和排水運転を継続させ、海域への栄養塩供給の増大を続ける。また県漁協本店とも協力し、第9次総量削減計画における瀬戸内海の総量削減目標の緩和実現に向け、パブリックコメントを行う。
- ・建網、小型底びき網等漁業者は、市や県等と連携し、クルマエビ、ガザミ、キジハタ、マコガレイ等の種苗放流を実施するとともに、小型底びき網やかにかご等で漁獲される抱卵ガザミを再放流する。また、山口県資源管理指針に基づき作成した資源管理計画の内容を遵守するとともに、値の付かない小型魚についても再放流を行う。
- ・東岐波支店、床波支店、藤曲浦支店の漁業者等は、干潟において被覆網設置によるアサリ保護を図り、資源管理を行って間引きによるアサリ漁獲を行う。またアサリ稚貝の天然採苗試験を実施し、浜のアサリ復活を目指す。東岐波支店の漁業者は漁港内での垂下カゴでカキの蓄養試験を行い最適な蓄養数量が判明した段階で、試験養殖の手続きに入る。
- ・宇部岬支店の潜水器及びさし網漁業者等は、二枚貝の食害生物であるナルトビエイの駆除による二枚貝資源の保護、床波支店漁業者等は、アマモ場の造成による稚魚育成場の確保、藤曲浦支店漁業者等は、干潟の耕耘及び被覆網設置、宇部岬支店・床波支店・東岐波支店漁業者等は、海岸・海浜への漂流・漂着物の回収・処分等を行い、資源の増大を図る。

② 漁獲物の品質・付加価値向上及び加工業の振興対策

- ・宇部統括支店は、市、県及び関係機関と連携し、直売所及び水産物加工施設である「うべ新鮮市場 元気一番」の充実を図ることで、地元水産物の販売促進を強化する。宇部統括支店女性部などは各漁業者の協力を得て、地元水産物を利用した加工品の開発(小型魚を活用した干物等)や、レストラン新メニューの検討、先進地視察を実施し、水産物の付加価値向上、販路拡大、流通コスト削減等による収益改善を図る。
- ・宇部統括支店は、移動販売車による「うべ新鮮市場 元気一番」から徒歩圏外で移動手段を持たない買い物弱者への鮮魚および惣

	<p>菜の販売を行い、地域のニーズ等を把握しながら顧客獲得を目指すとともに、市内の中山間地域に対しても移動販売を行い、より広範囲の消費者に宇部地区の水産物を届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、神経締め・活締め出荷等鮮度保持技術の統一的導入に努めるとともに、魚を傷つけない新たなエア抜き技術を習得することで、鮮度保持対策を徹底、出荷サイズの規格統一により、漁獲物の市場価格向上を引き続き図る。 <p>③ 宇部地区水産物の積極的な情報発信による PR 対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部市コンベンション協会と協力して、宇部市外の消費者向けに PR するための水産物を選定し、観光協会ホームページやポスター等に掲載する。 ・宇部市コンベンション協会と協力して、観光漁業としての活動を協議していく。 ・宇部・美祢地域地産地消推進協議会と協力して、「うべ新鮮市場 元気一番」のレストランメニューが地産地消として優れたものであることを消費者に周知するため、やまぐち食彩店として登録しガイドブックに掲載する。 ・「うべ新鮮市場 元気一番」における祭りやイベント、東岐波支店及び床波支店における朝市等について報道機関を通じて消費者へ積極的に周知し、水産物の消費拡大を図る。 <p>④ 漁業経営体等の育成対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な漁業者による就業希望者への長期研修、着業後の経営自立化及び生産基盤の整備を行い、昨今の担い手不足に対応し、浜の活性化を図る。 ・地域漁業振興への寄与の実績を有する者、漁業者の中核として活躍が期待される者として、山口県より認定を受けた青年漁業士、指導漁業士を中心に、担い手の育成、共同出荷等新たな取組みによる経営改善を推進する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年から 1.2%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油高騰対策 漁協は、漁業セーフティネット構築事業の加入を促進し、燃油高騰時に備える。 ・省燃油活動の推進 全漁船の船底掃除等を定期的実施し、燃費向上に努める。 ・省エネ機器導入 3隻の小型底びき網漁船の機関換装を実施し、10%以上の燃油

	<p>消費量の削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の実施 <p>全漁船の減速航行を実施し燃油消費量5%の削減を図る</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、漁村女性地域実践活動促進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業

4年目（平成34年度）【所得向上8%】

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を基準年から3.2%増加させる。</p> <p>① 資源管理と漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部岬支店の海苔養殖漁業者は、海苔養殖場への施肥（塩化アンモニウム等）の実施及び潮どおし等を考慮した効率的な海苔枠の設置（宇部岬漁場は栄養塩が少なく、藤曲浦漁場は栄養塩が多い。宇部岬支店と藤曲浦支店において、藤曲浦漁場への入漁協議を行い、海苔枠の間隔を広げる）により漁場を有効利用し、海域の低栄養塩環境下での生産性向上を図る取組みを続ける。 ・宇部統括支店は、引き続き市下水道局の協力により、現在の制度で実施可能な範囲で下水道の季節別緩和排水運転を継続させ、海域への栄養塩供給の増大を続ける。新たに策定された第9次総量削減基本方針に基づき、県が策定する排水規制値について、現状値から緩和へとなるよう県漁協本店と協力して働きかける。 ・建網、小型底びき網等漁業者は、市や県等と連携し、クルマエビ、ガザミ、キジハタ、マコガレイ等の種苗放流を実施するとともに、小型底びき網やかにかご等で漁獲される抱卵ガザミを再放流する。また、山口県資源管理指針に基づき作成した資源管理計画の内容を遵守するとともに、値の付かない小型魚についても再放流を行う。 ・東岐波支店、床波支店、藤曲浦支店の漁業者等は、干潟において被覆網設置によるアサリ保護を図り、資源管理を行って間引きによるアサリ漁獲を行う。またアサリ稚貝の天然採苗試験を実施し、浜のアサリ復活を目指す。東岐波支店の漁業者は漁港内での垂下カゴでのカキの試験養殖について、採算等を考慮にいたった規模等を検討する。 ・宇部岬支店の潜水器及びさし網漁業者等は、二枚貝の食害生物であるナルトビエイの駆除による二枚貝資源の保護、床波支店漁業者等は、アマモ場の造成による稚魚育成場の確保、藤曲浦支店漁
--------------	---

業者等は、干潟の耕耘及び被覆網設置、宇部岬支店・床波支店・東岐波支店漁業者等は、海岸・海浜への漂流・漂着物の回収・処分等を行い、資源の増大を図る。

② 漁獲物の品質・付加価値向上及び加工業の振興対策

- ・宇部統括支店は、市、県及び関係機関と連携し、直売所及び水産物加工施設である「うべ新鮮市場 元気一番」の充実を図ることで、地元水産物の販売促進を強化する。宇部統括支店女性部などは各漁業者の協力を得て、地元水産物を利用した加工品の開発（小型魚を活用した干物等）や、レストラン新メニューの検討、先進地視察を実施し、水産物の付加価値向上、販路拡大、流通コスト削減等による収益改善を図る。
- ・宇部統括支店は、移動販売車による「うべ新鮮市場 元気一番」から徒歩圏外で移動手段を持たない買い物弱者への鮮魚および惣菜の販売を行い、地域のニーズ等を把握しながら顧客獲得を目指すとともに、市内の中山間地域に対しても移動販売を行い、より広範囲の消費者に宇部地区の水産物を届ける。
- ・全漁業者は、神経締め・活締め出荷等鮮度保持技術の統一的導入に努めるとともに、魚を傷つけない新たなエア抜き技術を習得することで、鮮度保持対策を徹底、出荷サイズの規格統一により、漁獲物の市場価格向上を引き続き図る。

③ 宇部地区水産物の積極的な情報発信による PR 対策

- ・宇部市コンベンション協会と協力して、宇部市外の消費者向けに PR するための水産物を選定し、観光協会ホームページやポスター等に掲載する。
- ・宇部市コンベンション協会と協力して、観光漁業としての活動を協議していく。
- ・宇部・美祢地域地産地消推進協議会と協力して、「うべ新鮮市場 元気一番」のレストランメニューが地産地消として優れたものであることを消費者に周知するため、やまぐち食彩店として登録しガイドブックに掲載する。
- ・「うべ新鮮市場 元気一番」における祭りやイベント、東岐波支店及び床波支店における朝市等について報道機関を通じて消費者へ積極的に周知し、水産物の消費拡大を図る。

④ 漁業経営体等の育成対策

- ・経験豊富な漁業者による就業希望者への長期研修、着業後の経営自立化及び生産基盤の整備を行い、昨今の担い手不足に対応し、

	<p>浜の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域漁業振興への寄与の実績を有する者、漁業者の中核として活躍が期待される者として、山口県より認定を受けた青年漁業士、指導漁業士を中心に、担い手の育成、共同出荷等新たな取組みによる経営改善を推進する。
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により漁業コストを基準年から 1.6%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油高騰対策 漁協は、漁業セーフティネット構築事業の加入を促進し、燃油高騰時に備える。 ・省燃油活動の推進 全漁船の船底掃除等を定期的実施し、燃費向上に努める。 ・省エネ機器導入 3隻の小型底びき網漁船の機関換装を実施し、10%以上の燃油消費量の削減を図る。 ・減速航行の実施 全漁船の減速航行を実施し燃油消費量5%の削減を図る
活用する支援措置等	<p>水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、漁村女性地域実践活動促進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p>

5年目（平成35年度）【所得向上10%】

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を基準年から4%増加させる。</p> <p>① 資源管理と漁場環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部岬支店の海苔養殖漁業者は、海苔養殖場への施肥（塩化アンモニウム等）の実施及び潮どおし等を考慮した効率的な海苔枠の設置（宇部岬漁場は栄養塩が少なく、藤曲浦漁場は栄養塩が多い。宇部岬支店と藤曲浦支店において、藤曲浦漁場への入漁協議を行い、海苔枠の間隔を広げる）により漁場を有効利用し、海域の低栄養塩環境下での生産性向上を図る取組みを続ける。 ・宇部統括支店は、引き続き市下水道局の協力により、新たな制度で実施可能な範囲で下水道の緩和排水運転を継続させ、海域への栄養塩供給の増大を続ける。市と県は、宇部市以外の山口県瀬戸内海沿岸市の浄化センターにおいても、宇部市と同様の緩和排水運転を試みるよう働きかけ、瀬戸内海全体の栄養塩増大を目指す。 ・建網、小型底びき網等漁業者は、市や県等と連携し、クルマエビ、
--------------	--

ガザミ、キジハタ、マコガレイ等の種苗放流を実施するとともに、小型底びき網やかにかご等で漁獲される抱卵ガザミを再放流する。また、山口県資源管理指針に基づき作成した資源管理計画の内容を遵守するとともに、値の付かない小型魚についても再放流を行う。

- ・東岐波支店、床波支店、藤曲浦支店の漁業者等は、干潟において被覆網設置によるアサリ保護を図り、資源管理を行って間引きによるアサリ漁獲を行う。またアサリ稚貝の天然採苗試験を実施し、浜のアサリ復活を目指す。東岐波支店の漁業者は漁港内での垂下カゴでのカキの試験養殖について、採算がとれることを確認し、試験養殖から本養殖へと切り替える。
- ・宇部岬支店の潜水器及びさし網漁業者等は、二枚貝の食害生物であるナルトビエイの駆除による二枚貝資源の保護、床波支店漁業者等は、アマモ場の造成による稚魚育成場の確保、藤曲浦支店漁業者等は、干潟の耕耘及び被覆網設置、宇部岬支店・床波支店・東岐波支店漁業者等は、海岸・海浜への漂流・漂着物の回収・処分等を行い、資源の増大を図る。

② 漁獲物の品質・付加価値向上及び加工業の振興対策

- ・宇部統括支店は、市、県及び関係機関と連携し、直売所及び水産物加工施設である「うべ新鮮市場 元気一番」の充実を図ることで、地元水産物の販売促進を強化する。宇部統括支店女性部などは各漁業者の協力を得て、地元水産物を利用した加工品の開発（小型魚を活用した干物等）や、レストラン新メニューの検討、先進地視察を実施し、水産物の付加価値向上、販路拡大、流通コスト削減等による収益改善を図る。
- ・宇部統括支店は、移動販売車による「うべ新鮮市場 元気一番」から徒歩圏外で移動手段を持たない買い物弱者への鮮魚および惣菜の販売を行い、地域のニーズ等を把握しながら顧客獲得を目指すとともに、市内の中山間地域に対しても移動販売を行い、より広範囲の消費者に宇部地区の水産物を届ける。また、市外のイベントや祭り等に移動販売車での出店を試み、広く宇部地区水産物のアピールを行う。
- ・全漁業者は、神経締め・活締め出荷等鮮度保持技術の統一的導入に努めるとともに、魚を傷つけない新たなエア抜き技術を習得することで、鮮度保持対策を徹底、出荷サイズの規格統一により、漁獲物の市場価格向上を引き続き図る。

	<p>③ 宇部地区水産物の積極的な情報発信による PR 対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部市コンベンション協会と協力して、宇部市外の消費者向けに PR するための水産物を選定し、観光協会ホームページやポスター等に掲載する。 ・宇部市コンベンション協会と協力して、観光漁業としての活動を協議していく。 ・宇部・美祢地域地産地消推進協議会と協力して、「うべ新鮮市場 元気一番」のレストランメニューが地産地消として優れたものであることを消費者に周知するため、やまぐち食彩店として登録しガイドブックに掲載する。 ・「うべ新鮮市場 元気一番」における祭りやイベント、東岐波支店及び床波支店における朝市等について報道機関を通じて消費者へ積極的に周知し、水産物の消費拡大を図る。 <p>④ 漁業経営体等の育成対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な漁業者による就業希望者への長期研修、着業後の経営自立化及び生産基盤の整備を行い、昨今の担い手不足に対応し、浜の活性化を図る。 ・地域漁業振興への寄与の実績を有する者、漁業者の中核として活躍が期待される者として、山口県より認定を受けた青年漁業士、指導漁業士を中心に、担い手の育成、共同出荷等新たな取組みによる経営改善を推進する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年から 2%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油高騰対策 漁協は、漁業セーフティネット構築事業の加入を促進し、燃油高騰時に備える。 ・省燃油活動の推進 全漁船の船底掃除等を定期的を実施し、燃費向上に努める。 ・省エネ機器導入 3隻の小型底びき網漁船の機関換装を実施し、10%以上の燃油消費量の削減を図る。 ・減速航行の実施 全漁船の減速航行を実施し燃油消費量5%の削減を図る
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、漁村女性地域実践活動促進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p>

(5) 関係機関との連携

取組み効果が十分に発現されるよう、行政（宇部市及び山口県）が策定した振興計画等との整合を図ることにより強化するとともに、加工事業や販路開拓のために、県内外の流通・販売業者との連携を続ける。また、宇部市外の消費者に宇部地区水産物を宣伝、周知してもらうために、宇部市観光協会、宇部・美祢地域地産地消協議会と連携してPRを行う。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 30 年度：	漁業所得	千円
	目標年	平成 35 年度：	漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

(考え方)

中核的漁業者 12 名を抽出し、その平成 29 年のそれぞれの水揚金額に山口農林水産統計年報（H28～29）の瀬戸内海区の各漁業種別漁労所得率を乗じて合計し、その数値の平均値を基準年の漁業所得とした。

(3) 所得目標以外の成果目標

うべ新鮮市場元気一番の 来店者数又は売上額	基準年	平成 29 年度来店者数： 3 9 千人 " 売上額： 百万円
	目標年	平成 35 年度来店者数： 4 3 千人 " 売上額： 百万円

(4) 上記の算出方法及びその妥当性（記載例）

漁協直営の水産物販売所(食堂併営)の「うべ新鮮元気一番」は、管内漁業者の主要な鮮魚出荷先となっており、市及び関係機関の協力もあり来店者・売上額も堅調となっている。今後とも販売所の売上伸長は漁業者の収益性の向上に繋がるため、次期プランのサブ指標とする。
(平成 29 年度) 来店者数実績：39 千人、売上額実績：百万円を
最終目標年(平成 35 年度)にはそれぞれ 10%の増加の
(平成 35 年度) 来店者数目標：43 千人、売上額目標： 万円とする。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	食害生物の駆除、藻場造成及び干潟の保全等により、資源量の増大を図るとともに、地元小中学生、幼稚園児等への魚食文化の継承による地元水産物の認知度向上を図る。
漁業人材育成総合支援事業	意欲ある若者の漁業就業を支援し、後継者対策及び浜の活性化を促す。
漁村女性地域実践活動促進事業	漁協女性部や漁業士が中心となって新たな取り組みを行い、女性の活躍によって浜の活性化を促す。
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰に備え、漁業コストの削減を図る。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入を進め経費削減を図る。